

グローバル人材プログラムで感じた

大 石 虎太郎

Kotaro OISHI

機械工学・ロボティクス課程 2023 年度卒業

1. はじめに

私は 2023 年 8 月 17 日から 9 月 17 日にかけてアメリカ合衆国にあるサンフランシスコで約 3 週間のプログラムに参加した。今回のプログラムでは、グローバルな人材とはいったいどういった人を示すのかということ、日本とアメリカとの違いを体験すること、主にこの二つを目的とした。

2. プログラム内容

2.1 シリコンバレーツアー

シリコンバレーのツアーでは、シリコンバレーにある名所の観光や Google や Intel などの有名な IT 企業、スタンフォード大学やコンピューター博物館の見学などを行った。このツアーを通じて一番印象に残ったのは、コンピューター博物館の見学である。そこで解説員から、イギリスが最初にコンピューターの技術を開発したにも関わらず、それを秘匿したためにアメリカがその後コンピューター技術の先端を歩むようになった経緯について話を聞くことができた。また、世界では、広範な知識よりも卓越した専門知識を持つ人材が重要視されることについても学びました。このように、コンピューターの歴史から得た教訓や世界の価値観に触れることができ、非常に貴重な経験でした。

2.2 ホームステイ

サウスサンフランシスコで一人暮らしをしているおばあちゃんのところへ 2 週間のホームステイをした。彼女はたくさんの留学生を受け入れているようで、とても慣れている印象を受けた。特に、英語に慣れていない私が聞き取りやすいように、ゆっくり

大きな声で話してくれる点が良かった。毎朝、朝食を用意してくれ、夜ごはんもたくさん用意してくれたので、非常に快適に過ごすことができた。食事の際にはたくさんの会話をし、最初の 1 週間は英語に慣れることを目指して、少しでも英語で話すように努力した。2 週間が経つころには、アメリカに来たばかりのときよりも聞き取ることが簡単に感じられ、流暢に話せなかったが、自分の考えやしたいことを表現することができるようになった。最終日には晩御飯へ連れて行ってもらった。そこでは地中海の料理をごちそうしていただき、路上ライブも見ることができた。日本では観客がダンスしているのを見たことがなかったため、恥じらいなく楽しんでいると感じた。ホームステイ中は毎日異なるお話を聞かせてくれ、英語が上達するだけでなく、アメリカの歴史や面白い留学生の話など話題が尽きなかった。またアメリカを訪れる機会があれば、ホストファミリーに会いに行きたいと思う。

2.3 インターンシップ

私が今回お世話になった実習先の「Japanese Cultural and Community Center of Northern California」はアメリカのサンフランシスコにあるジャパントウンの中で、ジャパントウンの歴史についての発表を行ったり、花札や和菓子作りといった日本文化の体験をすることができたりする施設で様々なお仕事の補助をした。ジャパントウンのお掃除（図 1）も行



図 1 ジャパントウン清掃の様子

っていた。

2.4 インターンシップで学んだこと

私が、実習中に感じたことは非常に多くあったが、その中でも特に2点上げる。1つ目は、アメリカに住んでいる人たちは行動のオンオフの切り替えがはっきりとしており、各々が自分の考えや意見をしっかりと述べる点だ。最近の日本企業の中には増えてきているが、日本と違って仕事にコアタイムがない点やお昼休憩は各自で確保するといったスタイルに違いを感じた。それは各自がその日のコンディションや体調によって休む長さや回数を決め、仕事の効率を上げているのだと感じた。また、仕事で手一杯であるときに助けてほしいとしっかり意見を伝えることができるため、仕事の効率があがり、助け合いができる環境を生み出しているのだと感じた。

2つ目に、自分から仕事をもらいに行く大切さである。アメリカにくる以前に、アメリカでは自分から仕事をもらうことが大切であり、自分から行動できない人は何もできなくなってしまうと聞いていた。実際にアメリカのインターンシップが始まったの3日間はほとんど仕事を任されることがなく、不安な日々を過ごした。そこで勇気を出して何かお手伝いできる簡単なことを聞いて回ることで少しずつ仕事をもらうことができた。私にどのような仕事ができるかわからないため、任せることができなかったのだと考える。

3つ目に、日本がいかに素晴らしく安全な国であるかということだ。海外で働くということは、慣れない土地でうまく扱えない言語でその土地の文化に沿って暮らさなければならない。これは簡単なことではない。私はインターン初日にバスの乗り方がよくわからずに40分ほど歩いて実習先へ向かったが、道中に多くの倒れた人を見かけました。道の整備が

されておらず、おいがひどく、朝の通勤の時間帯に通っていたから良かったものの、夜中に歩いていたら成人男性といえども危ない雰囲気であった。日本では、女性一人でも近くのコンビニエンスストアへ出歩くことができ、その点でも安全性の違いを感じることができた。レストランなどで席を取っておくために鞆などをおいておく人を見かけるが、アメリカから帰ってきた今となっては考えることができず、現在では、鞆や大切な持ち物は肌身離さずに持ち歩くのが癖になっている。治安の悪さのレベルが非常に高いが、アメリカに住んでいる人が全て悪い人ではなく、いい人もたくさんいるということを知っていてほしい。

3. おわりに

このプログラムを通じて、アメリカと日本の文化やワークスタイルの違いについて深く理解でき、さらには国際的な環境で働く意義について新たな視点を持つことができた。この経験から、グローバルな職場で成功するためには、人種や文化の違いだけではなく、一人一人の個性や考え方を尊重し、理解することがカギであることを学んだ。

また、語学力の重要性も痛感した。日本にいる間は気づかなかった語学力の必要性を海外で実感し、これからのキャリアにおいて言語スキルの向上に取り組みたいという強い意欲を抱くようになった。語学力は異なる文化や国際的なコミュニケーションを円滑に進めるために不可欠であり、より多くの機会を開拓する手助けとなることを理解することができた。

今回の経験は、私の視野を広げ、異なる文化への理解を深め、キャリアの発展に向けた重要な一歩であった。これからも学び続け、成長し、国際的な舞台で活躍できる能力を高めていきたいと考える。